

ヒダサンショウウオ



環境省指定準絶滅危惧種、鳥取県指定準絶滅危惧種

会見地区にて

(撮影：桐原佳介)

今年6月、私は伯耆町の「カエ
ル工房」のスタッフの方、山の持
ち主の方など9名で、会見地区の
山林に行きました。

みんなで冷たい沢に入り、石の
下などをのぞいて、何かいないか
探していたら、大小のサワガニが
たくさん見つかりました。すると
Bさんが「何か泳いでいる
よ！」と声を上げました。それを
聞いた私の娘は、夢中になってそ
の場所に網を入れました。「やつ
た！はいった！」と、捕まえたも
のは、なんとサンショウウオの赤
ちゃん(幼生)だったのです。4セ
ンチ程で斑模様があることから、
ヒダサンショウウオの可能性が高
いと、一同興味津々でした。

早く図鑑で確認しようと、みん
なで元来た林道を下っていると、
娘の姿が見えません。あわてて工
房スタッフのKさんとBさんの弟
さんが娘を探しに行きました。す
ると、「ものすごいものを発見した
よ！」と3人が何かを持って戻っ
てきました。それを見た時、私は
口から心臓が飛び出てきそうな程
びっくりしました。それはヒダサ

ンショウウオの立派な成体だった
のです。全長17センチ。太い尾と
褐色の斑模様が特徴で、世界中で
西日本のみに生息する流水性サン
ショウウオです。第一発見者は工
房のKさんで、林道を横断してい
るところを捕まえたそうです。後
に、最初に見つけた幼生も、爪が
黒いことからヒダサンショウウオ
とわかりました。今回の幼体と成
体の発見は町内初確認であり、生
息地の標高がかなり低いことと、
早春以外の季節に成体が見つかつ
たことも珍しいということで、新
聞各社やテレビにも紹介してもら
いました。

国内に17種いる小型サンショウ
ウオの多くは、生息環境の悪化と
マニアによる乱獲などによって減
少しています。そのため、平成18
年には日本産全てのサンショウウ
オが絶滅危惧種に指定されまし
た。豊かな森と水辺の証人である
彼らがいることは、町の誇りでも
あります。いつかまた、同じ南部
町民のサンショウウオに会えたら
いいな、と思います。

自然観察指導員 桐原真希